

株式会社アフロ代表取締役

青木 紘二

戸倉 剛

キヤノン株式会社
副社長執行役員
イメージンググループ管掌



戸倉 剛 とくら・ごう

1982年の入社以来、EOS-1系のプロフェッショナルモデルからEOS Kiss シリーズなどのエントリーモデル、そして現在のEOS R システムまで、さまざまなカメラの企画と開発に携わる。常にひとりの写真愛好家としての視点と情熱を忘れないことをモットーとしている。カメラ：左からEOS-1D X、EOS-1D、EOS R1、EOS-1、F-1

青木 紘二 あおき・こうじ

1976年からプロフォトグラファーとして活動を開始し、海外撮影や商業分野に進出。主にスキーやゴルフ誌などで活躍した後、1980年に現在の株式会社アフロを設立。今なお、トップアスリートが集う、数々のスポーツ世界大会撮影の最前線に立つ。キヤノンEOSシリーズ愛用歴は30年。

「EOS」の進化は、 躍進する アスリートとともに

カメラの先進性能が スポーツの感動を捉え切る

青木 感激しました！ 新しいキヤノンのミラーレスカメラEOS R1のオートフォーカス（AF）のとても高い性能に。
戸倉 ミラーレスカメラとRFレンズで構成されるEOS R システムの頂点として、最高の性能「最高の信頼性」を徹底追求しました。なかでもカメラがピントを自動で合わせるAF性能に注力しました。

青木 例えば体操の撮影では鉄棒がパレールボールの撮影ではネットが手前に入ってくる場合があります。EOS R1はAFがほとんど迷わず、狙った選手の目にピントをスッと合わせられる。鉄棒やネットの存在を忘れるほどでした。

戸倉 EOS R1のAFの要は大きく2つ。ほぼ全画面で有効なキヤノン独自のクロスAF搭載とAI技術の採用です。

青木 競泳の撮影では息継ぎの際にピントの合った顔が、いったん水中に沈んで浮かび上がっても粘り強くピントを合わせ続けてくれました。

戸倉 被写体をすばやく見つけ、一度ピントを合わせた後捕捉し続けます。サッカーのシュートなど特徴的な動きをする選手をカメラが瞬時に見つけて、決定的なシーンにピントを合わせるアクション優先という機能も新たに搭載しました。

青木 被写体つまりモノを見けるのではなく、状況をカメラが判断する、高度な新機能ではないですか。

戸倉 膨大な量の決定的瞬間をカメラに機械学習させました。多くのプロフォトグラファーの方々のご協力に加え、今まで蓄積してきた撮影データも活用することで、高次元のAFが実現しました。当社が長く、ユーザーの皆様とともにカメラを開発し続けてきたからこそ成し得たと自負しております。

青木 撮影が楽になるといふより、貴重な瞬間を今まで以上に構図や光にこだわって撮れるようになる。創造力をかき立てられます！

万全のサービス体制は これまでも、これからも

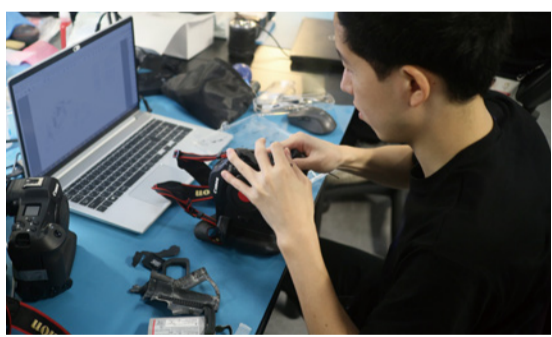
青木 昨年開催されたスポーツの世界大会でも撮影しました。キヤノンのサービスデスク「キヤノンプロフェッショナルサービス（CPS）」も頼りになります。屋外スポーツは天候に関わらず撮影しなければなりません。大会期間中に一度、撮影した後にカメラをチェックしてもらいましたが、大会終了まで快適に使うことができました。カメラやレンズの信頼性とCPSのおかげで、現場ではいつも集中して撮影できます。

戸倉 キヤノンのサービスデスクは70年代からスタートしました。大

会開催国はもとより世界各地のグループ会社から熟練者が集まり、製品メンテナンスから調整・修理まで現場で対応します。近年は通信やソフトウェアの技術者も赴きます。

青木 その蓄積が改良や新製品に生かされているんですね。

戸倉 はい。開発担当者がプロの方々の声を直に聞ける貴重な機会でもあり、これも当社の強みの一つ。プロの仕事は止めない。「ゼロダウンタイム」を使命にCPSでは代替機なども豊富にそろえて総力戦で当たっています。



「EOS」はフォト グラファーとともに 高みへと挑戦し続ける

青木 EOSとの出会いは30年前。当時のフラッグシップモデルでフィルムカメラのEOS-1Nからです。当初は手動でピントを合わせることにこだわっていたのですが、すぐEOS-1NのAFになりました。

戸倉 EOS-1Nも、中央の測距点は、すでにクロスAFを搭載していました。より正確にピントを合わせられるクロスAFの搭載は、「1」を名に冠する初代EOS-1

から最新EOS R1まで連続と続く、「1」の矜持でもあります。

青木 EOSの歴史はAFの進化の歴史でもあり、スポーツ写真の存在感や価値も増大させてきました。フィルム時代、手動でピントを合わせる一眼レフカメラでは至難の技だった奇跡のような写真が撮れるようになったし、トップアスリートの喜怒哀楽が表れる一瞬や金メダルを決める決定的瞬間をも高確率で狙えるようになりました。プロとして、その上さらに新しい映像表現を追求したいという情熱が、どんどん湧いてきます。

戸倉 キヤノンのレンズ交換式カメラ「EOS」シリーズは、「快速」「快適」「高画質」という哲学のもと開発を続けており、多くのフォトグラファーとともに、今なお、より高みへと挑み続けています。EOS R1開発のノウハウは、プロ・ハイアマチュア向けや、ひいてはエントリーモデルにも生かされています。

青木 EOSシステム全体の進化はプロに限らず、多くの写真ファン、カメラユーザーもワクワクさせてくれます。時代とともにトップアスリートのパフォーマンスは上がって、その一瞬にこそ真剣勝負で応えていくためには、カメラの進化も不可欠です。それを実現してくれる「EOSシステム」と「1」シリーズには今後も大いに期待しています。

戸倉 カメラ事業は当社の祖業であり、90年にわたりプロ・アマ含め、多くのフォトグラファーと向き合ってきました。性能や機能の進化は当然ですが、さまざまなニーズに合わせて進歩しなければ、新しい歴史は刻みません。動画撮影ニーズも高まるなか、EOS Rシステムをプロの動画機材としても十分に活用していただける展開を図り、さらには3DやVR、クラウドやネットワークによる映像連携など、今後時代へのニーズに合わせて感動あふれる最高の映像をお届けできるよう、キヤノンは柔軟な発想で取り組んでまいります。

企業広告
スペシャル
サイトはこちら

Canon
make it possible with canon